


大項目	書くこと
小項目	ひらがなの書き（なぞり書き）
タイトル （教材名）	なぞり書きのステップ
目的 身につけてほしい力	文字のなぞり書きが難しい場合に、徐々にステップアップした課題を設定し、少しずつ習得できるように学習を積み重ねる。
教材の概要 材料 作り方 工夫点など 画像	<p><教材 1></p>  <p>←白抜き文字をラミネートした用紙に、ホットボンド（黒のグルースティック）で文字を型取る。市販のゆびなぞりカードも使用可。</p> <p><教材 2></p>  <p>なぞる文字を A4 サイズで印刷し、クリアファイルに入れる。→</p>
教材の使用方法	<p><教材 1>指でなぞったり、ホワイトボードマーカーで書いたりして、繰り返して練習する。1文字ずつのカードになっているので、その時間に行う枚数を決めて提示すると良い。</p> <p><教材 2>クリアファイルの中に練習したい文字を印刷したものを入れ、ホワイトボードマーカーでなぞるようにする。文字の大きさやマスの有無等は、児童生徒の実態に合わせる。</p>
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・見るだけでは文字を捉えてなぞることが難しい場合は、触覚で文字の形を理解できるようにするために、<教材 1>のように凹凸のあるものから始めるのが良い。 ・見本を見ながらひらがなが模写できる場合は、なぞり書きを行う必要はない。 ・導入段階では、指導者が手を添えて一緒に書いたり、書字の時の指やペンの動きを児童生徒が追視するように、動きに合わせて言葉かけをしたりすることが大切である。